

活動報告

- 11月5日 福井市「住みたくなるまちづくり委員会」 第二回
- 11月7日 まちづくり懇談会 第二回
- 11月10日 「都電沿線の文化祭 in 荒川ゆうえん」(鹿児島、熊本、長崎、岡山、広島、松山の協力) 企画：都電ネット
- 11月12日 11月作業部会
- 11月15日 交通ネット部会
- 11月16日 関西圏の都市再生を考える国際シンポジウム
～日米のNPOが模索する「持続可能な社会を支える交通・まちづくりネットワーク」
- 11月16日 「福井・鯖江・武生連合都市圏」福武線スタンプラリー
- 11月16日 (社) 福井青年会議所創立40周年記念講演 上田惇生氏
「ドラッカー経営思想の真髄—ネクスト・ソサイエティへの道」
- 11月16日 高知・岡山ツアー参加 (RACDA 高岡ツアー) 土佐電鉄の電車とまちを愛する会との交流会
- 11月17日 高知・岡山ツアー参加 (RACDA 高岡ツアー) 路面電車と都市の未来を考える会との交流会
- 11月18日 市民活動セミナー写真パネル作業部会
- 11月19日 路線図・時刻表班 公共交通マップ作業部会
- 11月22日 11月例会

今後の予定

- 11月26日(火) 福井鉄道福武線活性化検討協議会先進地視察 高岡・万葉線
- 11月30日(土) 京都の公共交通の未来を創る市民フォーラム⑤ 「公共交通のネットワーク化を考える」
- 11月30日(土) ROBAの会11月作業部会の模様テレビ放送 福井テレビ16時10分「こんにちは市役所です」
- 11月30日(土) 「鉄道存続のまちサミット IN かつやま」事前会議
- 11月30日(土) 「鉄道存続のまちサミット IN かつやま」開催に合わせた市民団体交流会 IN 福井 by ROBA
- 12月1日(日) 「鉄道存続のまちサミット IN かつやま」基調講演・国土交通省講演・事例発表・本会議
- 12月5日(木) まちづくり懇談会 第三回
- 12月7日(土) まちかど探検隊(大阪)来福
- 12月7日(土) 市民活動セミナー2002「コラボしよう！」
- 12月8日(日) 市民活動セミナー2002「コラボしよう！」
- 12月17日(火) 12月作業部会
- 12月27日(金) 12月例会

→ 終了後「忘年会」だよーん。

【報告その1】

岐阜みらい研究団の堀さんからすでに報告がありました。11月10日に、東京・荒川遊園地そばの運動場で「都電沿線の文化祭 in あらかわ遊園」が開催され、そこに全国の路面電車に関係する団体がある程度の形で出店するというので参加しました。運動場には都電沿線の商店街が出店を出してにぎやかにしていました。

路面電車関連では、岡山は「MOMOグッズ」の販売、岐阜はパネル展、広島は県の名物の販売、鹿児島は物産館が土産物の販売等、わが福井は「活動の記録」を中心に皆さんにアピールしました。23人の方に、「福井での路面電車」の実態を説明することができました。中には、「福井なんかに路面電車なんてあるの?」という方やら、「疎閑していたんだよ」と懐かしく語りかけてくれる方、「トランジットモールはどうなった?」と興味深く質問された方等々。京福の衝突事故のことはあまり知られていないようです。当日は、東京会員の寺内さんと一緒に参加しました。

【報告その2】

11月16日に福井、鯖江、武生の各市が鉄道を通して交流しようと「連合都市圏」構想のもとに、路面電車の利活用の一環として、「スタンプラリー」を実施、私もそれに参加しました。福井は「養浩館」「橋崎覚記念館」がスタンプラリーの対象、それぞれに「語り部」(ボランティア)がおり、詳細に、親切に説明してくれました。武生市の担当者とお話をしたのですが、「なんとしても路面電車を残したい」という思いがひしひし伝わりました。

ROBAの会員の中では、岸本さんが武生から参加されていました。僕は、「さくら電車」のときは運営者側だったので参加できませんでしたが、今回は一参加者として行ってきました。

(写真等がありますので何かの機会に見ていただきたいと思います。)

(文・高橋)

★★高知・岡山視察旅行★★

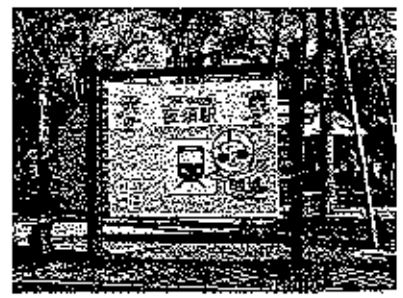
11月16日(土)～17日(日)の2日間で高知と岡山へ公共交通とまちづくりの視察に行ってきました。この視察は、RACDA 高岡が企画したもので、かねて親交のあることから声がかかったものです。ROBAの会からは、清水、川口、内田の3人が参加いたしました。

高知では、本年LRV(愛称:ハートラム、アルナ工機製)が導入されており試乗してまいりました。高知の路面電車は、「とでん」(土佐電気鉄道の略)と呼ばれており明治時代の開業とあって市民に親しまれています。約5分間隔での運行により、時刻表不要の公共交通となっています。また、常に活性化の次の手を打っていて前進のスタンスが伺えます。

また、土佐くろしお鉄道(ごめん・なはり線)にも試乗しました。アンパンマンで有名な「やなせたかし」さんの故郷でもあるこの路線は、楽しいキャラクターをはじめこんだ駅名や女性の車掌さん、P&R、駅と施設の一体化、駅と地域と産業の一体化が見られ、我が「えちぜん鉄道」も大いに見習うべきところがありました。

最後に、高知のまちづくりです。アーケードのある商店街が縦・横に伸び、さらに日曜日は「日曜市」が開催され(5:00～17:00)人、ひと、ヒトでした。そして商店街と日曜市が交わるには「ひろめ市場」(300年の歴史があるという買物・食事のスポット)が加わり、大変な活気がありました。人口32万の高知市、福井は人口以上にまちの賑わいでは大きく負けています。ますます、ファイトが湧いてきた視察でした。

(文・内田)



会員の広場

谷村 はるか

(たにむら はるか☆1971)



01年2月、朝日新聞福井支局に赴任。すぐにROBAの存在を知り、4月にアースデイの取材に行ったその場で入会。2か月後に京福2度目の衝突、その後の存続運動、活性化アイデアをみんなで考えた熱い冬。そしてえちぜん鉄道誕生と、ドラマチックな時期に福井に居あわせた縁をかみしめています。

幼い頃から乗り物と駅が好きで、旅する青春18ユーザーでもありました。愛するものは酒・食・歌、三国港と田原町の駅舎。ROBAがエリート集団にならず、素人さん代表であり続けることを願っています。

増田 外来士 (ますだ とし☆1940)

昭和33年、えちぜん鉄道の前身、京福電気鉄道に入社し、これまで44年間鉄道と共に歩んで来ました。現在は、京福の子会社第一技術開発株式会社に籍を置き、鉄道土木に関する業務を行っています。今年、鹿児島市の市電を見学して来ました。これからは市民と電車が共生して行く時代になることを確信しています。

これからも、ROBAの会の皆さんと共に楽しく生きていきたいと思いません。



ゆうじんの部屋 書籍紹介

東京図書出版会発行、星雲社発売、1300円

副題 利用者からの改革案 主題 都市交通はこのままでいいの か 島原琢

都市交通はこのままでいいの か、と言われると、できれば改善したいと考える人は多いと思う。この本も、鉄道ファンとして、国内外の鉄道の問題点を利用者の立場から紹介し、改善の方向を述べている。

しかし、以前紹介した川島令三氏の「鉄道再生論」に比較すると、その改善のための金は誰が出すのか、どのような仕組みを作れば都市交通が再生するのかという現実の経済を踏まえた視点が欠けているため、ROBAの会で真剣に考えている人にとっては、物足りなさの残る本であろう。

しかし、公共交通問題初心者にとっては、公共交通機関にこういう問題があって、このような解決策が海外にはあるといった事例学習には最適な本である。

(文・美濃部)

